

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 5月10日現在

機関番号：34504

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22531040

研究課題名（和文）特別活動における発達課題と評価についての研究

研究課題名（英文）A Study on the Developmental Tasks and Evaluation of the Special Activities from Elementary Schools to High Schools in Japan

研究代表者

佐々木 正昭 (SASAKI MASAOKI)

関西学院大学・教育学部・教授

研究者番号：80121523

研究成果の概要（和文）：本研究では、小中高等学校において、特別活動が継続的、系統的に育てるべき子どもの発達段階的な能力・態度とその育成方法ならびに評価を明らかにするために、理論研究、調査研究、ならびに実践研究を行った。調査については、近畿圏の大学ならびに小学校、中学校、高等学校を研究協力校とした。3年間にわたる本研究を通して、特別活動が各学校段階で育むべき能力・態度とその育成方法ならびに評価方法と、現状におけるそれらの課題と難しさについてかなり明らかにすることができ、一定の成果を収めることができた。

研究成果の概要（英文）：This study consisted of theoretical and practical elements combined with surveys and research in order to identify the developmental abilities and attitudes that special activities should continuously and systematically allow children to foster throughout elementary, junior high and senior high school and how to nurture/evaluate such special activities. To achieve this, we asked colleges, elementary schools, junior high schools, and also some high schools in the Kinki region to cooperate in our study. As a result of our 3-year study, we were sufficiently successful in identifying the abilities and attitudes that special activities should allow children to foster for each school stage, and pinpointing the tasks and problems in the present education system which inhibit these abilities and attitudes, as well as the difficulties in evaluating them.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,700,000	510,000	2,210,000
2011年度	700,000	210,000	910,000
2012年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	3,100,000	930,000	4,030,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学、教科教育学

キーワード：特別活動、指導と評価、発達課題、能力、系統性、教科外教育、学習指導要領、話し合い活動

1. 研究開始当初の背景

特別活動が意義深い活動として十分に認識されているとは言い難い現実がある。そ

れは特別活動の内容と方法に次のような課題があるからである。

(1) 内容

- ① 行うべき内容が明確でない。
- ② 目的が抽象的で今一つ明確でないこと、内容が多岐にわたり、焦点化しにくい。
- ③ 学習指導要領には、特別活動の幅広い活動内容が示されているが、時間指定のない内容が多い。
- ④ 担当教員（学級・ホームルーム担任）が、特別活動の意義と内容を十分理解していない。

(2) 方法

- ① 活動に際し決まった方法がない
- ② 個々の教員に任せられることが多い。そのため教師のあいだに指導方法の差があり、特別活動の成果に大きな差が生じている。
- ③ 担当教員（学級・ホームルーム担任）が、やり方が分からない、面倒であるといった理由のもとに、軽視する傾向がある。
- ④ 教員養成において、特別活動の教育方法、指導方法が確立していない。
- ⑤ 学校のカリキュラムに余裕がない。
- ⑥ 中学校、高等学校では、進路指導を重視するあまり、特別活動の他の活動ができなくなる傾向がみられる。

2. 研究の目的

上述のような特別活動軽視の傾向を打破し、その重要性を教育界はもちろん、一般の人々に認知してもらうために、次の目的を設定した。

- (1) 特別活動がどのような能力・態度を育み、どのように人格形成に寄与するかということを明確にする。
- (2) 特別活動が育む能力・態度、人格形成への貢献を、子どもの発達段階に即して、どのように継続的、体系的に育成するかということを明確にする。
- (3) 本研究は、先行研究である日本特別活動学会近畿支部（平成19年度から3年間、「特別活動で育てる力の発達段階への位置づけ」をテーマとした有志による共同研究）を受け継ぎ、小学校、中学校、高等学校において、特別活動が継続的、系統的に育てるべき子どもの発達段階的な能力・態度と、その育成方法ならびに評価を明らかにすることを目的としている。

3. 研究の方法

(1) 研究の形態

本研究の目的を達成するために、理論研究、調査研究、ならびに実践研究を行った。

- (2) 研究の構成員は、子どもの発達に即した特別活動の能力・態度形成と評価についての実践的な研究であるため、近畿圏の研究

者ならびに近畿圏の小学校、中学校、高等学校の現職教員と元教員に協力を要請した。

- (3) 研究の進め方は、研究分担者と研究協力を理論部門と調査部門に分けるとともに、全体会だけでなく、必要に応じて作業部会を設け、その作業部会には作業内容に応じて、随時さらに新たな研究協力者を加えた。

- (4) 調査については、近畿圏の大学校ならびに小学校、中学校、高等学校を研究協力校として、次のような調査を行った。

- ① 大学生に自己の小学校、中学校、高等学校において特別活動で身につけたと思う能力・態度について、振り返る形で質問紙調査を行った。

- ② 新しい教育課程の編成にあたり、小学校、中学校、高等学校では、どのような特別活動の指導計画を作成して評価を行っているのかについて調査するとともに、場合によっては、調査結果を提供して、指導計画の作成のための助言や提案を行った。

- ③ 特別活動の研究開発校や先進的な取組をしている学校を対象として、特別活動で獲得した能力・態度についてのフィールド調査や質問紙調査を行い、その成果と課題を整理して、特別活動で育つ能力、態度とその指導方法等を探った。

- (5) 特別活動における能力・態度を育む実践報告と実践研究

- ① 特別活動を中心にした学校建て直しの実践報告

- ② 特別活動の育む能力・態度の実践研究

4. 研究成果

本研究の研究成果として次の8点をあげる。

- (1) 発達課題についての先行の理論の理解と特別活動の現状把握

- ① 発達課題についての先行の理論を参照しつつも、現代日本の状況に即して修正し、現代の子どもに必要な特別活動の発達課題を追究した。

- ② 現行の小、中、高等学校の学習指導要領ならびに解説に掲載されている特別活動の内容を、発達課題の視点から捉えなおして整理し、問題点や課題を検討した。

- ③ 小学校、中学校、高等学校の発達段階に分けてそれぞれの段階の特徴と課題を整理した。

- (2) 特別活動が育む能力・態度の検証

- ① 特別活動が小、中、高等学校を通して、児童生徒にすでに多くの能力・態度を形成していることを実証した。

- ② 特別活動が共同体としての集団形成に役立つことを実証した。

- ③積極的生徒指導としての特別活動の役割を証明した。
- (3)特別活動で育んでおきたい能力・態度の発達段階別モデルの作成
- ①特別活動で育んでおきたい能力・態度の発達段階別モデルの試案を作成した。
- ②特別活動は集団活動を特色とするが、集団が苦手な子どもについての記述も加えた。
- (4)特別活動が育む能力・態度の評価表作成と学級集団の変容の検証
- ①小学校での特別活動が育む能力・態度を評価表として作成し、これを使って学級集団の変容を1年間検証した。
- ②この評価表の中学校、高等学校版を作成し、これを使用して中学校、高等学校の学級集団の変容を追った。
- (5)集団の状態や集団形成の指標としての話し合い活動の意義を示した。
- (6)特別活動の優れた実践事例を内容別にあげた。
- (7)調査研究の成果
- ①特別活動で育つと考えられる資質能力について、質問紙調査を通して縦断的、経年比較を試みた。
- ②近畿地方の小学校、中学校、高等学校の児童生徒を対象とした、同一尺度による実態調査を行った。
- ③質問紙調査協力校の教職員と協力して、調査結果の妥当性の検証を行った。
- ④学校種や学年による特徴(発達段階)を追究した。
- ⑤特別活動の実践に評価の観点からアプローチした。
- ⑥これまでの大阪市の研究や先行研究を継承しながら、その成果をさらに発展させることができた。
- (8)研究協力体制の成果
- ①研究者と実践者による緊密な共同研究ができた。
- ②本研究においては、高等学校の現職の教員、元教員、元教育委員会課長の参加を得ることができたので、近畿支部の先行研究ではできなかった高等学校における特別活動の現状把握とそれに基づく課題の追究と、小・中・高の発達に即した継続的な特別活動の課題の検討ができた。また、高等学校の優れた実践事例の紹介を受けることができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

- ① 中村豊「学校教育における社会的な資質や能力及び態度の形成に関する研究」

日本生涯教育学会『日本生涯教育学会論集』32、2011年9月、pp.83-92、査読有。

- ② 中村豊「特別活動で育つ社会的資質・能力に関する研究—大学生の振り返りアンケート調査を通して—」関西教育学会『関西教育学会年報』通巻第35号、2011年5月、pp.131-135、査読無。
- ③ 佐々木正昭「特別活動が育む能力」日本特別活動学会会報第56号「論壇」、2011年3月、pp.10-11、査読無。
- ④ 佐々木正昭・中村豊「社会的発達課題に応える特別活動—これからの学校づくりをどう考えるか—」日本特別活動学会『日本特別活動学会紀要』第19号、2011年3月、pp.1-9、査読有。
- ⑤ 中村豊「生徒指導と特別活動」関西学院大学教育学部『教育学論究』第2号、2010年12月、pp.115-126、査読無。

[学会発表] (計6件)

- ① 中村豊、佐々木正昭「特別活動が育む能力についての実証的考察」日本特別活動学会第21回大会(於 愛媛大学城北キャンパス)、2012年8月26日
- ② 山本健治「集団になじめない子の理解と援助—特別活動の課題として—」日本特別活動学会第21回大会(於 愛媛大学城北キャンパス)、2012年8月26日
- ③ 佐々木正昭、添田晴雄、中村豊、秋山麗子、西川幹雄、岸本秀章、五百住満、佐藤真、山口満「特別活動の発達課題と評価」の中間報告」日本特別活動学会第1回研究会(於 関西学院大学上ヶ原キャンパス)、2012年6月23日
- ④ 佐々木正昭、秋山麗子、中村豊、添田晴雄、西川幹雄「特別活動における発達課題と評価について」日本特別活動学会第20回大会(於 宇都宮大学峰キャンパス)、2011年8月20日
- ⑤ 中村豊「学校教育における社会的な資質や能力及び態度の形成に関する研究」日本生涯教育学会第31回大会(於 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター)、2010年11月27日
- ⑥ 中村豊「特別活動で育つ社会的資質・能力に関する研究—大学生の振り返りアンケート調査を通して—」、関西教育学会第62回大会(於 関西学院大学上ヶ原キャンパス)、2010年11月13日

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐々木 正昭 (SASAKI MASAOKI)
 関西学院大学・教育学部・教授
 研究者番号：80121523

(2)研究分担者

五百住 満 (IOZUMI MISTURU)
関西学院大学・教育学部・教授
研究者番号：00546830

中村 豊 (NAKAMURA YUTAKA)
関西学院大学・教育学部・教授
研究者番号：10509938

山本 健治 (YAMAMOTO KENJI)
関西学院大学・教育学部・准教授
研究者番号：70546829

佐藤 真 (SATOU SHIN)
兵庫教育大学・学校教育研究科・教授
研究者番号：20324949

添田 晴雄 (SOEDA HARUO)
大阪市立大学・文学研究科・准教授
研究者番号：30244627

山口 満 (YAMAGUTI MISTURU)
関西外国語大学・外国語学部・教授
研究者番号：20006571

(3)連携研究者

なし

(4)研究協力者

秋田 久子 (AKITA HISAKO)
兵庫県立伊丹高等学校 校長

秋山 麗子 (AKIYAMA REIKO)
大阪市立城東小学校 指導教諭

池原 征紀 (IKEHARA MASANORI)
芦屋市立精道中学校 教諭

加藤 敦子 (KATOU ATSUKO)
大阪市立玉造小学校 教諭

河原 勝彦 (KAWAHARA KATUHIKO)
精華町立精華西中学校 教諭
※平成23年度まで

木佐貫 正博 (KISANUKI MASAHIRO)
流通科学大学 教授

岸本 秀章 (KISHIMOTO HIDEAKI)
王寺町立王寺中学校 教諭

重松 司郎 (SHIGEMATSU SHIROU)
兵庫県特別支援教育センター

杉中 康平 (SUGINAKA KOUHEI)
堺市教育委員会 主任指導主事
※平成23年度まで

高根 雅啓 (TAKANE MASAHIRO)
大阪府立大学 准教授

田原 恭蔵 (TAHARA KYOUZOU)
所属なし

中園 大三郎 (NAKAZONO DAISABUROU)
兵庫教育大学大学院 教授

西川 幹雄 (NISHIKAWA MIKIO)
(財)大阪市教育振興公社

西谷 博文 (NISHITANI HIROHUMI)
武庫川女子大学附属高等学校 教諭
※平成23年度まで

根津 隆男 (NEDU TAKAO)
神戸市立総合教育センター 教育相談室
室長

濱川 昌人 (HAMAKAWA MASATO)
大阪市立四貫島小学校 教頭

比山 園恵 (HIYAMA SONOE)
関西学院大学 非常勤講師

藤原 靖浩 (HUJIWARA YASUHIRO)
関西学院大学大学院 院生

ボラグ (BORAGU)
関西学院大学 非常勤講師

松田 修 (MATSUDA OSAMU)
大阪市立柏里小学校 校長

山田 智博 (YAMADA TOMOHIRO)
大阪市立中浜小学校 教諭